



小川村章

小川村議会報
第205号

議会だより

発行 小川村議会

〒381-3302 長野県上水内郡
小川村 大字高府 8800 番地 8
TEL (026) 217-1246
FAX (026) 269-3578 (代)

Eメール: gikai@vill.logawa.nagano.jp

発行責任者 小林和人
議会報編集特別委員会

印刷 (株)西条印刷所

村民と議会のかたる会開催



令和5年6月定例会

感染症対応臨時交付金事業や

5月豪雨の災害復旧費など可決…………… 2

第2回臨時会…………… 3

議案賛否一覧表…………… 3

一般質問(質問順)

新井 幹夫議員… 4 久田 茂男議員… 7

大日方義次議員… 5 西沢榮之助議員… 8

西沢 哲朗議員… 6 塚田 綾子議員… 9

常任委員会活動報告(閉会中の調査)

総務建経常任委員会…………… 10

社会文教常任委員会…………… 11

村民と議会のかたる会…………… 12

村民の声く村に思うこと…………… 13

議会の動き…………… 14

議長のつぶやき…………… 14

編集後記…………… 14

6月定例会

感染症対応臨時交付金事業や 5月豪雨の災害復旧費などを原案通り可決

令和5年6月定例会は、6月2日から6月16日までの15日間開かれ、専決処分事項の承認3件、条例改正案2件、事件案1件、補正予算案4件の合計10件について審議し、すべて原案どおり可決した。

一般質問には6名が登壇し、村政について質した。

に伴う売買契約の締結について可決した。

議案第30号

令和5年度小川村一般会計補正予算(第2号)

今年度の国からの感染症対応地方創生臨時交付金により、次の事業が行われることとなった。

- 小川村生活応援商品券事業 2,384万円

議案第26号 専決処分事項の承認 令和5年度小川村一般会計補正予算(第1号)

低所得の子育て世帯に対する生活支援特別給付金事業に263万円。

- 5年度の新型コロナウイルス感染症に係る事業に1,501万円。

議案第29号

村有財産取得に係る売買契約の締結について

村道の草刈りに使用するためのロータリー除雪機に取り付ける草刈り機のアタッチメントの購入

業に準じて補助を行うものの。

- 学校給食食材高騰助成 142万円

給食費徴収額の1割を助成し、材料費等の高騰に対応するもの。

また、郷土食「おやき」を引き続き給食に提供するべく交付金を活用するもの。

災害復旧費

- 公共土木災害復旧費 1億4,556万円

5月7～8日にかけて発生した豪雨災害復旧費。

- 村道12号線 青木立地 籍ほか。

賛成討論

鎌倉一夫議員

感染症対応臨時交付金1,751万4,000円に一般財源632万5,000円を加えて村民1人に1万円

を交付する生活応援商品券事業は通算で7回目となるが、物価高の中、全ての家庭に直接支援となり、有効かつ公平性があり、地域の商店への支援にも繋がり大いに期待する。

教育費でも、臨時交付金70万6,000円を使つての給食食材費高騰分の助成は、保護者負担の軽減にもなり評価する。

また、成長期にある児童・生徒の健康保持と増進に大きな役割を果たしている学校給食が、人員不足により日々の提供が危機的状況と聞いている。引き続き人員確保に努められたいが、業者委託もやむを得ないと推察する。

議案第32号

令和5年度小川村簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)

- 感染症対応臨時交付金 1,751万4,000円
- 薬師浄水場取水沈殿槽補修工事 500万円
- 配水管布設替工事(稲丘)

小池地籍)

1,180万円

陳情審査報告

今定例会には、2件の陳情が提出され、総務建経常任委員会に付託された。

・国に対し、適格請求書等保存方式(インボイス制度)の延期・見直しを求める陳情

・「消費税インボイス制度(適格請求書方式)」の実施延期を求める意見書提出についての陳情

陳情の付託を受け、総務建経常任委員会では提出者から陳情内容の説明を受け、審議の結果、陳情を採択することとし、2つの陳情が同じ内容であることから、意見書の一つにまとめ、内閣総理大臣・財務大臣等へ提出した。

第2回臨時会

令和5年第2回臨時会が7月5日に開かれた。この臨時会では、補正予算1件が提出され、原案どおり可決した。

令和5年度小川村一般会計補正予算(第3号)

教育費給食管理費

407万円

学校給食の調理業務の委託料933万円と、会計年度任用職員人件費等の減額526万円。

賛成討論

西沢榮之助議員

子供たちへの給食の提供が人手不足により危機的な状況であり、2月より調理手の募集をしているが応募が無い状況である。また、人材派遣をお願いしても人がいないことが残念である。

何としても、子供たちに安心・安全な給食が提供できるように、打ち出されたのが調理の業務委託である。経費は掛かるが、人事管理の心配はいらないことは大切である。途中で業者が撤退することが無いよう、業者選定についてはよく吟味されるよう要望し賛成討論とする。

町村議会議員研修会

7月14日(金)に、令和5年度町村議会議員研修会が松本市のキッセイ文化ホールで開催され、出席した。

講演では、「議会のなり手問題と住民参加について」として毎日新聞記者 人羅格 論説委員から、「少子化対策について」として、大正大学大沼みずほ准教授から話があり、今後の議会運営について参考となる研修会であった。

令和5年6月定例会 第2回臨時会 議員・議案ごと賛否一覧表

Table with columns for proposal number, content, and voting status of 12 council members (小林和人, 塚田綾子, 西沢哲朗, 大日方義次, 鎌倉一夫, 大久保利廣, 久田茂男, 伊藤幸光, 西沢榮之助, 新井幹夫, 審議結果). Includes sections for 6月定例会 and 第2回臨時会.

一般質問
新井幹夫議員



若者定住に向けた企業誘致は

村長 人口減少対策に効果が期待出来る 施策の一つと考える

問 この質問から、若者定住がさらに進む施策を展開してもらいたいと希望する。

村長さんからは前向きなご答弁をお願いしたい。

まず、村内に企業誘致を進め、若者定住に結びつけるべきだと思うがどのように考えるか。

村の良さは、アルプスが見え、緑が深く、人情が良く、温かく移住者を迎えてくれると言っているが、それだけで増加すると考えているのか、現状認識を伺いたい。

村長 企業誘致についても人口増加が期待出来る施策だと考えている。

しかし、経済産業省の資料では、平成元年以降20年間で7割近くの工場が国外に流出していること、空洞化が進んでいることである。

このことから過疎化の進む村では労働力確保が難しいと見られる。

今後とも情報収集と発信をしていきたいと考え

ている。

要望 進出希望の会社の情報があれば役場を挙げて取組みをいただきたいと思うし、既に稼働中の村内企業にも気配りをお願いしたいと思う。

国保直営診療所の常勤医師の確保について

問 前任の小出医師が退職されてから2年が経ち現在を迎えている。

この間延べ9名の先生を確保され毎日の診療に当たられているが、住民の希望は、医師住宅に住んで緊急時にも対応をして貰える先生がいることである。

そう簡単に確保ができないことは十分承知しているが、現状と見通しについて伺いたい。

村長 診療所の常勤医師の不在について村民の皆さんに大変ご心配をおか

けている。

常勤医師の確保については、令和5年5月に小林クリニックの院長先生とお話させていただき、今後、勤務日数増やすことも考えながら、常勤の医師としてお願いできることで承諾をいただいた。今後は、小林先生と具体的に話を詰めていくことになる。

小林先生は、村診療所に関わって36年経つと聞いている。馴染みのある先生なので早く実現したいと思っている。

要望 それは大変嬉しいニュースである。村民が安心する情報になる。正式決定したなら広報で知らせていただきたいと思う。

5年度主要事業の進捗状況について

問 まだ、新年度がスタートして2ヶ月、残り

10ヶ月もあるのにどうしても質問するのかわかると思われるが、私達の任期も9月までである。

予算審議の段階では具体的な場所の公表が無かった村営住宅の建設場所等について、どのくらい交渉が進んでいるのか伺いたい。

村長 新年度予算の中で大きな事業である若者定住住宅のための土地取得、造成について予算を決定いただいている。年度が替わり、用地交渉等を地権者の方と進めさせていただき、5月末までにご快諾を頂いた。

場所については、釜蓋のククヤ商店の西側の隣接地の3名の地権者の土地である。

今後、書類等の手続を進めて、区画配置を検討し造成を進めて行く予定である。

問 具体的な用地の場所が発表ありましたので、年内には、造成工事の完

成を目指してもらいたいと思う。

また、ロマン館浴室整備の進捗状況についてはいかがか。

村長 工事を行うには、施設を休館にして整備しなければならぬので、工事は、1月から2月頃と見込んでいる。

実施に当たっては指名によるプロポーザル(提案)方式を考えており、業者を決定していく予定である。

要望 今年度のこのほかの主要な事業として、村道1号線の災害復旧、村道3号線富吉地籍の改良、村道16号線の県代行工事等は、地域の住民に十分理解をしてもらい進めてもらいたいと思う。

また、常に費用対効果を考え、予算を執行してもらうことを要望し、職員協体制を確立して事業遂行に当たってもらいたいと思う。

一般質問
大日方義次議員



アルペンドームの雪害対策について

村長 メッシュの金網を降雪前に取り付ける



問 事前にお断りをした
いが、3月定例会に質問
の予定であったが、都合
によりできなかったの
で、季節外れな内容にな
るが、ご容赦願いたい。
アルペンドームの県道
側のフェンスについて、
現在の網では冬場に屋根
から滑り落ちる雪が網を
くぐって県道まで落下し
てしまうので、メッシュ
の金網を取り付ければ、
費用も少なく、県道への
落下も軽減されると思っ
ていかがか。

村長 アルペンドームの
フェンスについては、過去に
何回となくかさ上げを行
い、現在の状況となってい
る。

冬場はフェンスにシート
を張って県道への落下を防
いでいるが、設置と撤去で
手間が掛かっている状況で
もある。

落下した雪が通行中の
歩行者や車に当たるなど、
万が一のことを考えれば村
の責任となる。今年の降雪
前に対策を取っていきたい。

ロマン館風呂場の 改修工事につ いて

問 今年度予算で大きな
金額が計上されているロ
マン館の風呂場の改修事
業であるが、具体的にど
のように計画をされてい
るのか伺いたい。

村長 浴室の増築工事に
ついて、脱衣室・浴室とも
総面積で現行の1.5倍ほ
どを想定している。その
ため、駐車場側へも
張り出すこととなる。
具体的には、浴室
の床面積が現状19坪
を改修後は26坪を想
定しており、アルプス
の景観も楽しめればと
考えている。

この改修工事について

では、プロポーザル方式
企画競争入札で計画して
おり、6月中には指名通
知を発送し、7月中には提
案書の提出、8月上旬には
業者を決定し工事を進め
ていくスケジュールである。

要望 アルプスが見える
ようにとの改修も行われ
るので、折角の眺望がガ
ラスが曇って見えないう
うなことが無いように配
慮をされたい。

入浴料金について

問 ロマン館の入浴料を
農閑期の1〜2か月くら
い、村民は小川の湯と同
じ料金にすることは出来
ないか。

村長 ロマン館と小川の湯
では客層が違うが、農閑期、
特に冬場は利用者も少な
くなるので、多くの村民に
利用されるよう検討させ
ていただく。

ロマン館近くに 分譲地を

問 このことについて

は、以前から質問をして
いるが、ロマン館近くの
アルプスの眺望のいいと
ころが、都会の人たちが
希望する分譲地である。
村長のお考えは。

村長 大洞高原一带は村
内でも一番景観がいい所
だと思われ、来られた方
がアルプスの展望に感動
される場所と思う。

分譲の規模も含めて一
考の必要性は感じてお
り、また、そのような場
所に分譲地を求めている
方がどのくらいいるのか
を含め、貴重な提案とし
て検討をさせていただ
く。

村内にひまわり の華を

問 今年、地域の仲間
でJAよりひまわり
(ハイブリッドサンフラ
ワー)の種を仕入れ、畑
に蒔いたところ5日くら
いで芽が出た。今年はず
りあえず来年分の種を確
保し、多く収穫できれば
油を搾ってみようかと

思っている。

農林公社でも今年も作
付けをし、油を搾る計画
と聞いている。
商品化し、農林公社に
種を買取ってもらわな
いとただ花を見るだけで
終わってしまう。

今年の農林公社の計画
を、理事長の副村長から
伺いたい。

副村長 農林公社でも、
今年度も試験栽培を継続
的に行うべく取り組んで
いる。

ひまわりは、世界的に
パーム油や大豆油等に次
ぐ第4の植物油として注
目されている。

ひまわり油はオレイン
酸やリノール酸の成分が
多く、健康や美容にいい
とのことで公社でも着目
し、昨年度、試作を始め
たが、搾油はスケジュー
ルが合わず出来なかった
経過がある。

これらの点を検証し、
作業スケジュールに落と
し込んでいけるよう、前
向きに検討をしていきた
い。

一般質問
西沢哲朗議員



今後の財政の見通しは

村長 健全な財政運営に努める

問 10年前と比べて税収は殆んど変わらないが、今後の見込みはどうか。

村長 村税は約1億8千万円台で10年前、20年前と比べてもほとんど変わりがないので、今後も大きな変動はないが減少傾向にあると思っている。

問 10年間に基金全体で4億円増えている中で、何にでも使える財政調整基金は3億円増え12億円となっている。国から目を付けられやすい基金なので、目的基金を増やすほうがよいのではないか。

村長 国は地方自治体の基金状況を調べる際、財政調整基金の状況を主に見ており、目的基金はあまり注目していない。また、小川村は同規模の他町村と比べて多いと思っ

ては使えないが財政調整基金は何にでも使えるのでこのような状況になる。

問 村債は10年前48億円あったものが令和3年度は33億円と大きく減っているが、今後10年位の大雑把な財政計画が必要ではないか。

村長 借金のピークは平成11年で108億円あったがそれ以後減って現在に至っている。

起債が減っている中で過疎債は増えているが、過疎債は7割の交付税措置があるため、補助事業よりも有利な部分もある。今後も活用可能な事業に有効に利用している。

問 今後村の人口は確実に減っていくと思う。人口減少の中での事業推進について村長の考えは。

村長 村発足以来人口減少対策は永遠の課題となつている。人口減少に歯止めがかかる大きな事業はなく、むしろ減少率は上がっている状況にあるので、様々な事業を通じて人口減少に抵抗していきたい。

公共施設の管理計画は

問 平成28年度に作成された村の公共施設の床面積を14・4%削減するという公共施設管理計画は、計画通り進んでいるのか。

村長 国では数字的な目標を掲げろという事で14・4%という数字を掲げたが、あまり意味のない数字である。ただ、令和10年度までに、払い下げるとか取り壊すという個別計画はできている。

問 村民や国に約束したことをなぜやらないのか。

村長 数字のことについては今は国でも言っていない。具体的な個別計画では譲渡が10棟、取り壊しが面積は少ないが幾つか予定している。

村営住宅の入居は

問 大久保住宅へはどのような方が入居したのか。

村長 平屋の3棟は競争率が3倍を超える応募があり、入居者は、白馬村、長野市の方である。

また、単身者用は4名の申し込みで白馬村の方が3名、上野の方が1名である。

問 過去の一般質問で、村職員は、一般村民とは違うので村営住宅への入居については、家賃を高くする等入居基準を作ったほうがよいと提案したのか。

村長 具体的に規定を作る等の検討はしていない。

未来塾 中条地区の生徒の参加は

問 「おがわ未来塾」の塾生に、中条の小学生2名、中学生2名の計4名が入っている。

開設時の実施要綱では塾の対象者は小川村に住所を有する小中学生となっている。経過を聞きたい。

教育長 子供たちにとって交友関係が広がるなどメリットが大きいと判断したこと、来年度の中学入学生から中条からも小川中に来ることができ

るので、小川中を選択してもらえ環境の整備に努めたいこと等によるもので、教育委員会で協議をしたうえで実施している。

また、「教育委員会が認める村外該当学年の児童生徒」も対象となるよう実施要綱の一部を変更してある。

公民館活動運営方針について

教育長 生涯の様々な学習の機会の提供と内容の充実を



一般質問
久田茂男議員

問 新型コロナウイルスの感染予防対策により3年間開催できなかった事業、新規に取り組んだ事業、人口減少や高齢化による今後の公民館活動等の運営方針について伺いたい。

教育長 公民館活動の基本方針は、子供から高齢者まで一人一人が生涯にわたり新しい時代の生活に即した知識や技術・教養を高め、心の豊かさや生きる力を育むために様々な学習の機会の提供やその内容の充実にある。アフターコロナの令和5年度も生涯学習支援の役割を果たすために計画を考えている。5月9日の社会教育委員会、5月12日の分館長主事会で、今年度の計画を概ね了承を得ている。イベント・講演会等について、小川村二十歳を祝う会は来年1月3日に実施。式典・記念写真撮影のみの方向である。文化講演会は12月3日実施予定で、人権講演会は12月10日に計画している。

小川村郷土史研究会



熟年大学は半日開催を基本に、今後詰めていきたいと思う。スポーツフェスティバルは、10月9日開催予定である。キッズチャレンジは実施開始日を検討中。通学合宿は9月実施で検討。図書イベントは、7月29日に実施予定。文化協会の活動は、作品展・ステージ発表等実施予定で計画。各種事業個々の違いはあるが、できる限り従前のようを実施する方向で計画している。また熟年大学では、今まで実施できなかった校外研修について、強い要望があり行つていきたい。

消防施設の管理・補修・修繕は

問 防火水槽について、各地区に作られているが、建造後年数が経ち老朽化が見えるが補修管理の今後の計画について伺いたい。

村長 防火水槽は、村内に312箇所を設置され、基準と照らしても充足している。老朽化に伴う布設替えを含め、地区要望の他、各分団からの要望により実施している。直近5カ年では、新設または布設替えで、設置箇所は平成30年度に塩沢地区、令和元年度に新設で久木本郷、令和2年度に花尾和田、令和3年度に表立屋で久木本郷以外は布設替えである。修繕箇所は、令和元年度に埋牧、令和2年度上夏和、令和3年度表立屋、大久保、令和4年度に高山寺で実施した。現在分団からの要望箇所は4箇所あるが、今後、

緊急性の高いところから順次実施予定である。



久木沢河床の上床による防火水槽の補修対策を

河畔林整備事業と二次災害防止対策

問 雲井橋から久木方面に約400mの間、久木沢に倒木があり景観を損ねている状況であるが、河畔林整備事業や、県の森林づくり県民税の事業としての取組みが得意な

村長 単年の河畔林整備事業の目的は、河川区域内の倒木が水の流れを害したり、豪雨時に倒れて

橋梁に引つかかるなど水害の原因にならないように事前に整備することを目的にしている。

県が管理する一級河川の流出の危険性が高い箇所や下流に住宅があるなど、水害発生時の被害が特に大きい箇所、危険性を感じられる箇所、事業効果の高い箇所を実施するものである。

昨年8月の豪雨災害を見ても、自然災害は激甚化・頻発化している状況である。

村単事業、森林環境贈与税を利用した事業も踏まえて、地区要望箇所の危険性が高いところから積極的に推進したい。



倒木による河畔林の整備を(久木橋付近)

一般質問
西沢榮之助議員



果樹共済掛金補助率アップを

村長 質問の趣旨を踏まえ検討する

問 4月の遅霜により、果樹等に大きな被害が発生した。

リンゴの開花は例年5月上旬であるが、春先高温の日が続き開花が早く、その後4月末に霜が降りたため被害が大きくなった。

開花後低温が続くミツバチの活動も悪く受粉もできなく、二重の被害になった。

霜予防には、防霜ファンが効果はあるが高価であり、設置は困難である。被害対応には

果樹共済があり、村では掛け金の補助をしているが、補助率を上げ、加入促進に取り組んではどうか。

村長 春先の高温、4月下旬の凍霜害により、果樹農家に大きな被害がでた。長野市は果樹被害が1億8千万



霜被害にあった果樹園

円、小川村では5百万円の被害状況である。

共済掛金補助については、今年度から果樹共済に加えて、収入保険も対象にした。掛け金の補助は、令和元年に20%から30%に改定をした。

掛け金の補助は、国が50%で後は市町村の判断であり30%補助が大半であるが、質問の趣旨を踏まえ検討する。

水利費の補助を

問 物価の高騰で住民誰もが苦しんでいる、特に電気代が20%から30%値上がりすると言われている。

村内には水利組合が12位あると思うがポンプの電気代が無視できない状況である。耕作面積は同じでも、耕作者数が減少して負担も大きくなっていく。

農業振興でもあり、電気代の補助の検討はいかがか。

村長 円安や原発停止などにより、電気代が高騰している。補助について検討した経過がある。農業振興に関わる補助事業は、販売される物や機械等であり、家用の物は対象外である。水稻農家の大半は自家用と思われる。補助は見合わせてきた。

問 高齢化等で負担も大きく、生産物の価格は変

わりなく、肥料等は値上げをしている中で農業を続けるには行政に頼る以外にない。村長の再考を願うのがいかがか。

村長 農業振興を踏まえ、村には農業振興推進協議会がある。農業行政等に精通した方の会である。新たな補助事業も必要ではないかとの意見もある。協議会や農家の方等の意見を伺いながら、再度検討する。

村営住宅・杜宅にも

問 人口対策には、住宅建設は効果がある。これまでは、移住者に重点を置いてきたが今後の政策を伺う。

村長 現在村営住宅は111戸である。入居状況は、村出身世帯が37世帯である。

過疎自治体では必要な

政策である。移住定住した転出者を防ぐ効果もある。

問 村外企業等にも働きかけ、若者世帯を取り込むことも一考である。それには学校教育の魅力が必要と思うが。

村長 若者の定住は企業誘致と並行し考えたい。子供が少ないと若い夫婦の移住は厳しい。昨年発足した、公設学習塾についても中条地区にも声掛けをしている。

教育長 移住者を増やす大切なことは、小川に來れば学力が伸び、個性を大事にすることが当初からの考えである。昨年始めた小川未来塾の効果は絶大であった。点数の大幅に上がった生徒もいる。小学1年生からの英語教育にも取り組んでいる。

小川に來れば子供が伸びる実感を大事に教育に取り組みたい。

第6次振興計画基本構想 後期計画の内容は



一般質問
塚田綾子議員

村長 新たな課題も踏まえ、行政側の 一方的にならないように進めていく

問 この計画は来年から後期となる。現状と課題、考えは。

村長 村の最上位計画の振興計画。課題は人口減少の対策に、成果が上がっていないことである。

企業誘致、住宅施策、道路整備や支障木も含めた環境整備、産業振興、子育て支援、学校教育の充実など、全てが人口減少対策につながり、全体で進める。
前期を一瞬立ち止まり振り返って、成果や手不足などところを確認し、後期の振興計画策定につなげていきたい。

問 どのように進めるのか？

村長 7月中に企画委員会を立ち上げ、策定方針・草案の作成作業、8月上旬に第1回の策定委員会を開催。12月に審議会、2月に最終の審議会で決定する予定である。

問 村民アンケートを行ったリ、パブリックコメントの受け付けや、審議委員の公募などが考えられるが、いかがか。

村長 前回のアンケートに基づく振興計画の最中で、後期のためにアンケート調査は行わない。

これを審議する委員の方は、全てを網羅する必要はなく、それぞれの立場で、関わっていただき、行政としては、できる限り一人でも多く村民の声を広く深く吸い上げるのが根本と考えている。

環境疾患※の周知啓発について (化学物質・電磁波過敏症)

問 どのように認知し対応しているのか、また、実態把握もあれば伺いたい。

村長 村民の方の環境疾患の症状の実態は把握し

ていない。私自身もこの質問で知った。

国の動向や具体的な治療法の確立に注視するとともに、この疾患の存在を周知することは大切で、実際に苦しんでいる方への理解や配慮いただけるよう、周知啓発に取り組み必要があると考える。

問 発症した方への支援の検討は？

村長 県あるいは他自治体の対応も十分注視しながら対応していきたい。

辛い思いをされている方が相談できるよう、保健センターでの職員対応、相談対応窓口などできるように努めていきたい。

問 教育現場での対応は？

教育長 以前、安曇野市教育委員会から、資料をいただき知っていた。

学校は学び以前に安全で安心して学べる環境を

作ることが第一と考えている。

学校環境は、学校保健法、学校衛生基準に基づいて安全な環境を保っている。

例えば、校舎の床のワックスはシックハウス症候群に対応したものを使用し、施工は児童・生徒が長期に登校しない夏休みの初めに実施している。

シックハウス症候群や、化学物質過敏症状があるかは、健康カードによる把握や家庭の方との相談で現状を把握し、対応する。

住民福祉課長 保育園に關しても、安全に過ごしていただけのように十分配慮している。

電磁波に関しては、見えない、匂いもないもので対応が難しいが、強い電波を発信する携帯電話を使用するときは、子どもから離して使う、などの周知をすることが、対応として考えられる。

※環境疾患(化学物質過敏症)とは、建材をはじめ、家庭用品や化粧品、洗濯洗剤、柔軟剤などに含まれる微量な化学物質に敏感に反応して、体調不良が現れることである。
症状は様々で、頭痛、耳鳴り、気管支炎、喘息、皮膚炎、倦怠感など。
治療法は、原因物質から離れることが有効とされている。
課題として、生活環境中に多く化学物質が存在し、患者は自分の症状と社会環境の二つに苦しむ新しい疾患であり、周囲の理解がなかなか得られないことや、本人自身もわからないまま様々な診療科の診察を受け、医師や看護師も知らなければ、誤診され続けてしまっている。

委員会報告
総務建経常任委員会

閉会中の委員会活動

令和5年4月11日午前10時から委員3名と職務出席の議長、委員外議員5名及び担当課長、係長が出席して、管内視察と所管事務調査を実施した

管内視察

下水道夏和浄化センター固定脱水機の設置状況と、村道12号線青木立地籍の災害視察を行った。



夏和浄化センター固定脱水機

夏和浄化センター固定脱水機の設置状況

この脱水機設置工事は、令和4年度事業で進められていたが、世界的な半導体不足の為に、破砕機に使用する部品が年度内に間に合わないとのこととで繰越事業とし、8月頃の完成が見込まれていたが、部品が早期に納入され、試験運転を経て、竣工したとの説明であった。



村道12号線青木立災害現場

村道12号線青木立地籍災害状況視察

この災害は、令和5年5月7日の大雨により発生、急斜面からの岩や土砂の崩落により村道を埋め尽くし、現場では全面通行止となっており、桐山方面へは持京を迂回しないと行かれない状況である。

今後は、道路災害・河川災害として国の災害査

〔建設経済関係〕

令和4年度補正予算

令和4年度予算において長野建設事務協議会の負担金に不足が生じたため、3月31日付で補正予算の専決処分をしたと報告があった。

災害復旧について

令和4年8月に発生した豪雨災害については、公共土木災害については、

定を受け、早期に復旧を行うとの説明がされた。

《所管事務調査》

〔総務課関係〕

感染症対応臨時交付金

国から、電気・ガス・物価高騰対策として感染症対応臨時交付金の追加交付が2,800万円程

あり、うち800万円は低所得世帯への交付金分で、残りについては事業を見極め6月定例会に上程する予定と報告された。

固定資産税について

令和5年度の固定資産税は、7,690万円の前年度より360万円の増加であり、要因として償却資産が災害関

連の資材整備等により、330万円の増となった。

地域おこし協力隊について

地域おこし協力隊の募集には1名の応募があり、農林公社での任務を希望しており、今後面接を行い決定していくと報告された。

58か所中、3月末の竣工は1か所で、50か所が翌年度に繰り越され、その内、ほぼ完成が6か所、施工中が9か所、未着手が35か所であり、このほかに県工事との関係で、未発注が7か所であるとのことである。

耕地災害は43か所発注済みで、竣工12か所、施工中が16か所、6月以降に施工予定が5か所、収穫後の施工が7か所とのこと。

林道災害では、13か所

農業振興関係について

令和4年度の大豆振興事業について、補助対象出荷量は38tで前年度比6tの減であった。

そばは、出荷量で31t、

雑穀は2.1tで共に前年度よりやや減収と報告された。

5月7日の大雨について

この大雨について、24時間連続雨量は村内各地で100mmを超えた。

そのため村内各地で災害も発生し、午前中視察した村道12号線を含め、公共土木災害で13か所、耕地災害で水田2か所、畑1か所、水路1か所の被害が報告された。

委員会報告

社会文教常任委員会

閉会中の委員会活動

5月12日、委員5名のほか議長、委員外出席3名、担当職員の出席のもと、管外視察と、所管事務調査を行った。

《管外視察》

G・フレンドリー

村から搬出している資源やごみの調査に、松川村へ行った。

(株)G・フレンドリーと

村とのやりとりは、プラスチック製容器包装、金



G・フレンドリーで説明を受ける

属、粗大ゴミ、ビン、缶、陶器の収集と中間処理を行っている。

実際に処理されている現場を見て回りながら、担当の方に説明をしていただいた。

議員からも様々な質問が出て、現状を詳しく知ることができ有意義な視察となった。

現在の生活や社会様式に多く選ばれている資源・ごみの処理方法について、考え直す必要があるが、今現在での本村の課題は、

《所管事務調査》

〔住民福祉課関係〕

診療所について

現在、非常勤医師6名、医療機関派遣医師3名の計9名体制で行っている。

常勤医師の確保については、県医師人材確保課・国保連合会へ依頼をして

いるとの事。
コロナワクチン集団接種

令和5年度は春と秋の無料接種が計画されている。

対象者は、初回接種済みの方に限られ、モデルナ社製のオミクロン対応2価ワクチンを予定しているとの事。

何回も接種すると免疫力が低下する、違うワクチン

〔教育委員会関係〕

公設学習塾について

中学生対象の放課後塾と、小・中学生対象の土曜塾がある。

土曜塾は中条の生徒も受け入れる。今年19名の塾生で開校している

が、途中からも入塾できるので、活用されたい。

社会教育について

会員の減少だけでなく、団体の減少も進んでいるが、新型コロナウイルス

チンを接種すると消えてしまうのでは、などの質問に対し、国から情報提供は無いと返答であった。

効果が長く無いため定期的に打っているのではと認識しているとの事であった。

マイナンバーカード

4月1日時点の小川村のカードの申請状況は、

66・82%の申請である。
資源・ごみの回収

年1回の粗大ゴミの日に出す乾電池・蛍光灯について、常設回収拠点を設けてはとの質問に、過去に検討した事はあるが、不法投棄の温床にもなりかねない為見送っているとの回答であった。

学校給食について

調理員の募集を行なっているが、現状は基本3名の調理員が必要なところ、1名不足している。そして臨時の時にお願いしている代替えの方が毎日従事している状況である。(5月12日時点)

今後の方向として、給食が止まる事なく提供し続けられるように、民間業務委託も視野に入れ調整しているとの説明であった。

びっくらんど小川

アリーナ天井の耐震化工事の進捗状況は、6月に国からの許可があり、その後、設計・入札という流れである。

8月ごろより工事が始まる見込みである。

村民と議会のかたる会 開催される



令和5年5月13日(土)の午後、小川村公民館において「村民と議会のかたる会」が開催された。以前は、議会報告会として実施していたが、より多くの、幅広い年齢層の皆さんに参加していただくように、集会名を改めた。

コロナ禍により、3年ぶりの開催であり、実質4回目の実施であった。当日は村民17名が参加される中、まず、総務建経常任委員長・社会文教常任委員長から3月定例会において審議された内容が報告され、その後、参加者それぞれから意見を出していただいた。



出された意見は、○もつと村のホームページを活用し、議会の情報を発信してほしい。○小・中学校で使用されているパソコン・タブレットについて、子供たちの目を守るようにすべてのブルーライトカットのフィルムを貼ってほしい。

○近年、電磁波等による健康被害を聞く。役場でもWi-Fiの電波により職員が体調不良にならないか心配である。○様々な問題が山積している。診療所の常勤医師の件、経済や雇用の問題、企業誘致、空き家対策など。



○県の森林税を活用して伐採や植樹を検討してほしい。○せっかく村内に光ケーブルが引かれているのだから、議会中継等もやれば住民との距離も近づくと思う。○村民の健康のためにもつとお金を使うべきである。



○診療所で受診する者として女性の医師がいることはありがたい。○防災無線は無駄な放送も多いと思う。もつと静かな環境があってもよいと思う。○最近、社会が変わってきており、今までの常識が通用しなくなってきた。自分の意識改革も必要と感ずる。○村も少子高齢化が進み、名物のおやきも、地場産センターがなく、味菜でも作る人が減って苦慮していると聞く。若い力で参加できないか考えていきたい。○先頃議会においてごみ処理施設の視察内容等について質問があった。○ご参加いただいた皆さんありがとうございました。

村民の声

～村に思うこと～

村に思う 村を思う

成就区 丸田真里子

小川村に移住して43年が経ちます。目的もなく、一村民として暮らしたいとの思いだけの移住です。

「灯りが一つ増えて嬉しいよ」近所のおばあちゃんの温かな笑顔と言葉に励まされ支えられて、暮らし続けてこられました。

43年が経ち、村の姿は大きく変化していることを強く実感します。

5,000余人の人口は2,300余人に減少し、高齢化も進んでいます。

産業・交通・通信・「ごみ」の問題。

これらは小川村だけの問題ではなく、全国的な課題・問題です。ただ思うことは、全国の市町村にはそれぞれ独自の特性がある事です。全国同じでなく。

その特性が「利」となるか「負」となるか。村の、村民の考えで一転できる、一転させることができると思うのです。視点を変える、視点が変わることです。「利」は「利」に転ずるのではないのでしょうか。

ここ数年間、村への移住者が増えていると知り、視点を考えるチャンスは今だと思えます。多様化社会と呼ばれている今、老若男女、地区の垣根を越えて、村に生まれ育った人、村に生ま

れたけど今は村外に住んでいる人、村外から移り住んでいる人、縁あって小川村に住んでいる者同士、それぞれが心地よく住むことのできる村づくりを考えるチャンスです。

村も村民一人ひとりも村で暮らすには何が出来るか。視点をちよつと考えてみたいと思います。

小さな村だからこそ、一人ひとりの村民の力は大きいと思います。

日高トンネル無料化を契機に

夏和区 匿名希望

「広報おがわ」6月号によると、同月1日現在村の人口は2,271人で前月比10人の減。減り続ける人口に歯止めをかけ、将来にわたって持続可能な村づくりにつながる妙案はないものか。難題だが、今新たなチャンスを迎えているかもしれない。

2025年2月ごろ無料化になりそうな白馬長野有料道路・日高トンネルが経済や産業の推進、人口増に役立つと思う。村と長野市間の交通の利便性が良くなり、働きやすく住みやすくなる小川村をこの機会に広くPRしてはどうか。

農業活性化の一助にもなる。長野市とのアクセス向上を活かして農業体験を盛り込んだエコツアーなど、参加者に山里の魅力を実感してもらえらるイベント

を定期開催。来村者が増えれば、地元農産物・特産品の収益も安定的に確保できる。

首都圏からの集客にも期待。高速道路の更埴ICや長野ICからの所要時間が短くなり来村者は増えるはず。この機を逃さず、移住関連の情報を積極的に発信してUターン、Iターンを促してほしい。

若者の村離れも深刻だがインターネットやスマートフォン普及で働き方が様変わりし、自

然環境に恵まれる村での暮らしに関心が深まっているように思う。長野市内の職場までマイカー通勤がしやすくなれば、子育て中の定住世帯増も見込める。

日高トンネルの無料化で小川村の人口が増え、村が活性化するよう期待したい。県観光部などがつちりタッグを組んで、村の未来を明るくものにしてほしい。

議会の動き

12	9	8	7	6	5	3	2	6月	27	26	24	23	22	18	17	16	13	12	5月	
全員協議会	本会議 質疑	総務建経常任委員会 社会文教常任委員会	社会福祉協議会評議員会	本会議 一般質問	本会議 一般質問	小学校校庭運動会	本会議 議案説明	6月定例会招集 全員協議会	おがわ未来塾開講式	長野地域森林祭	ながの農協第32回通 常総代会	農林公社みらい評議員会	土地開発公社理事会	社会福祉協議会理事 会	小川村商工会総会	総務建経常任委員会	会	村民と議会のかたる 会	社会文教常任委員会	5月
3	8月	27	25	20	19	18	14	14	5	4	4	4	4	7月	16	15	14	14	14	
県要望箇所現地調査	総合戦略審議会	総務建経常任委員会	議会報編集特別委員 会	促進期成同盟会総会	社会文教常任委員会	議会報編集特別委員 会	会	県町村議会議員研修 会	議会運営委員会 全員協議会	本会議 議案説明 議案審議	国道406号整備促 進期成同盟会総会	進期成同盟会総会	国道406号整備促 進期成同盟会総会	7月	本会議 討論・採決	業現地調査	小川教育協議会	村道16号線県代行事	小川教育協議会	

6月の定例議会が終わりました。案件自体は少ない中でしたが、今の状況下での課題が議論を白熱させた部分もありました。多様性のある議会として、活性化を感じた部分もありました。

さて、村内では昨年から今年の5月豪雨を含め、災害対応案件が目につきました。また、様々な環境下での経済生活状況対応、子育て支援対策、コロナ対応等の国策を中心とした、毎日の生活展望に関する案件も多く目に付く状況下です。先行きの不透明さと不安感が表面化しています。皆様は如何感じているでしょうか。

そんな中で数年間のコロナ感染防止対応によって出来なかった、議会報告会が久しぶりに行われました。时期的なものもあったのか、参加者が少なく寂しく感じられました。議会と議員と直接に顔を合せての話し合いの機会でしたが、関心度と期待度の低さを改めて感じました。事実であります。住民とその代弁者として、大いに語り合える場面であり、また、車座式に自由に語り合えたら、もつとい

議長をつぶやき

議長 小林和人

そんな意見が出てくるのかなとも感じた報告会でした。

行政に陳情や意見の橋渡しだけでなく、多くの住民の皆様と共に村の状況や未来を考え、語り合う事が重要と感じるところでもありました。住民と議会、議員の資質も向上すると思いますが如何でしょうか。小さな自治体で、村民との距離が近い議会です。

その利点を大いに活用すべく、そこに議員も住民と共に大きく育つことも、議員の要因の一つでもあると感じます。今後に於いて、その機会を多く作っていく事が課題の一つと思います。

第17代の当議会も9月で任期を迎え、残りわずかとなりました。ここで4年間の御礼と感謝を申し上げます。今、議員は各常任委員会において、委員外の出席義務のない議員も殆んど全員が出席しています。行政側からの説明を詳しく聞いたり、質問したりして、理解を深めて対応しています。いい事と感じています。そんな事を含め、次の議会に期待しています。有り難うございました。

編集後記

村のマイナンバーカードの普及率は70%と聞いています。国では、来年11月までに保険証をこのカードの中に入れると意気込んでいました。

しかし、相次ぐシステムトラブルが発生しています。既に交付を受けた人、これから受ける人に不安を与えないようにシステムの再点検をして貰いたいと思います。

このカード1枚で政権が揺らぐ様では、国民は不安になります。今年も暑い夏が予想されています。我慢しないで熱中症対策をして乗り切りたいものです。

新型コロナウイルスが5類に移行されました。第9波が来ているとの話がありますが、負けないように頑張らしましょう。

(新井 幹夫)

- 議会報編集特別委員会
- 委員長 久田 茂男
- 副委員長 大久保利廣
- 委員 新井 幹夫
- 委員 西沢榮之助
- 鎌倉 一夫